

学校評価から見てきた本校の課題と令和８年度に向けての改善策等について

体制（相談・連携等が組み合わさるもの）		【研修の振り返り】 ③「松山の授業モデル」に沿った授業改善 →各学年で具体的な課題を確認。 2月上旬まで。 →研究や体制の検討（学年主任、研修主任） 【あいあいタイムの見直し】 ④「深め合うため」と「伝え合うため」に分けて整理し直し →本校が目指す「対話的な学び」の協議。 2月研修部会。 →あいあいタイムについて教職員の意識統一。 →先攻研究調査、よい事例の映像化などの検討（学年主任、研修主任） 【生徒指導部会の在り方検討】 ⑩今年度の課題の洗い出し →学年部の連携強化。 →学年団対応の見直し。 2/2生徒指導部会で。 （生徒指導主事、学年生徒指導） →体制について管理職と相談。 【いじめ等諸問題の報告・連絡・相談の仕組み改善】 ⑨教職員間での報告・連絡・相談の流れを再検討 →併せて、保護者への報告について流れ検討。 いつ？ （生徒指導主事、学年生徒指導）	【児童会活動の充実】 ⑬環境整備 →俳句黒板を委員会お知らせコーナーに変更。 来年度。 ※（図工主任）掲示板活用の変更を提示 →各委員会と相談し、よりよいコーナーへ。 4月職員会で。 （委員会担当者）
話し合っており、取り組めるもの	【体力の向上】 ⑧縄跳び強化週間 →意欲の出る取組。 2月実施。 （体育主任・体育部員） 【情報発進の強化】 ⑪HPでの情報発信 →全学年掲載。働き掛けて調整 3学期中。 （教頭） →HPにキャリア教育や特別支援教育についてUP。 →保護者への更なる理解促進。 （キャリア担当、特支コ）	【児童理解】 ⑪ジブンミカタプログラムの活用と研修 →プログラムの概要と活用の仕方を研修。 （研修主任） ※今年度高学年のみの活用。 全教職員への周知まだ。 ※教職員による児童の変容を見取る力の向上として。 【タブレットの活用について】 ⑮タブレットの活用ルール徹底 →タブレットの入れ替えに合わせて実施。 ※指導する内容（新たなルールの決定）の相談（済）。 【地域との連携】 ⑳地域との連携 →GOGO学習及び地域等に協力依頼したい内容審議 →今年度の活動を元に計画・修正 （教務・学年主任） →全教職員が把握。2月中旬に。 【情報発信の強化】 ⑫来年度HP運営の在り方についての検討 （教頭、情報担当）	【自主学習の充実】 ⑤意欲付けを図るため、よりよい具体例を提示。 年度初め。 （学担） 【児童理解】 ⑪ジブンミカタプログラムの研修の機会 来年度以降。 →教職員による児童の変容を見取る力の向上。 →プログラムのよりよい活用ができるように。 （生徒指導主事） 【特別支援教育】 ⑯HPや学校・学年だより等を通した情報発信 →学校の教育に対する地域や保護者の理解を深める。 ⑰配慮が必要な児童に寄り添う姿勢などの研修 →合理的配慮について、特支コ主催で教職員の研修。 （特支コーディネータ）
自分たちで取り組めるもの	【体力の向上】 ⑦家庭でできる運動 →教職員間で共有 朝の会・終わりの会・授業中にできる運動紹介→実施 （体育主任→学担） 家庭学習として取り組めるよう発達の段階に応じて指導 （学担） 【安全教育】 ⑫totoruで帰宅時間周知 →3月の帰宅時間変更から。 （生徒指導主事） ⑭防げるケガを防ぐ指導 →ミライムで発生状況や留意点を即配信。指導の徹底。 （養護教諭→学担） ※緊急を要する場合→直接伝達。終礼で情報共有。 →目配りの手薄な所、時間帯の再確認・対応の徹底。 （養護教諭） 【個を大切にしたい指導】 ⑩教職員の児童の呼び方・接し方改善 →生徒指導部会で協議（済）。後、教職員に徹底。 （生徒指導主事）	【授業改善】 ①ロイロの資料箱整理 →教材・ワークシートを整理・蓄積する。 （学担、学推、研修主任） ②年間指導計画への朱書き →ロイロ等のICTの活用についても朱書きする。 （各学年で実施→研修主任） 【自主学習の充実】 ⑤学担がよりよい自主学習を収集。 3月中旬までに。 →目指す自主学習のモデルのデータを保管。 （学年主任→学推） 【読書活動の充実】 ⑥みきやん通帳の活用の呼び掛け 図書委員会と連携→読書の記録を残す。 （学推→図書委員会担当）	
	今すぐ	今年度中	来年度以降